

平成28年度 事業報告書

自 平成28年 4月 1日

至 平成29年 3月31日

平成29年 5月27日

学校法人 金蘭千里学園

1. 法人の概要

単位：名

項 目	高 校	中 学	備 考
設 置 す る 学 校	金蘭千里高等学校	金蘭千里中学校	
入 学 定 員	180	180	
在 校 生 徒 数	529	526	平成28年5月1日()現在
教 職 員 数	54	61	平成28年5月1日()現在

監督官庁などへの各年度報告基準月日

2. 事業の概要

・金蘭千里中学校・高等学校における事業の基本的な概要

以下の項目・内容を基本・原則として、教育事業を展開した。

男女共学 1学級30人

学習指導

カリキュラム

併設型中高一貫校としてのカリキュラムによる効果的、効率的学習

英語・数学・国語は、基礎科目として時間増

理科・社会は、広範な科目を履修することによる幅広い進路選択への対応

20分テスト

通常授業を重視し、月～金曜日に成績評定を決する復習テストを実施し、成績状況を授業や個別指導にフィードバックによる学力の向上、定着

特別授業

学力の補足、練成のための、夏季・冬季・春季長期休業期間における特別授業の実施

生活指導

担任を中心とした個人指導の徹底

スポーツ

校技

男子はサッカー、女子はバレーボールを校技と定め、6年間を通じた指導により全生徒が共通のスポーツとして習得

他種目

校技に加え、学年によってテニス、バスケットボール、卓球、ハンドボール、バトミントン、男子バレーボール、女子サッカー、ゴルフを選択履修

国際理解

中1～高3

ネイティブ・スピーカーの教員による英語指導

中3

民族学博物館の見学とテーマ学習、及び卒業レポートの作成

中2・中3・高2

外務省や国際機関、外国公館を通じ派遣された専門家による、国際事情の理解を深めるための講演会の開催

高1

イギリス海外研修(イートン校・ハロウ校) <希望者のみ>

キャリア教育

中高6年間の発達段階に応じた生徒の個性と能力に応じた進路指導

外部講師による講演や職業体験などを通じた、単なる大学進学指導に止まらない幅広い進路指導の実施

野外活動

キャンプ・自然研修

各学年キャンプ又は自然研修旅行の実施による自然体験

徒歩訓練

北摂の自然に触れるオリエンテーリング形式の行事の実施

情操教育

音楽鑑賞

国内外の一流のアーティストによる演奏鑑賞の実施

合唱祭

中学生・高校一年生が運営企画するクラス対抗のコンクールの実施

情報教育

eメール、インターネット等の基礎技術の修得や各教科学習の補助、情報処理モラルの涵養

部活動

生徒の多様性に対応するとともに、生徒に多面的な負荷をかけることにより「勉強を頑張りクラブ活動も頑張る」スタイルを確立させ、多彩な活動ができる人材を育成

・当該年度の主な事業の計画・目的

体育館の整備

- ・金蘭会学園からの借用となっている体育館を自己所有とすべく、資産交換等を含めて取得時期の確定に向け、金蘭会学園との交渉をすすめる。

カリキュラムの変更

- ・中学1～3年にも週37時間制を導入する。
- ・従来放課後やコース期間中に実施していた集中講義を週37時間の枠内で実施し、教育課程表との更なる整合性や放課後の課外活動時間の確保を図る。
- ・コース期間の授業設定においては2コマ連続授業を取り入れ、通常授業時とは異なる観点からの授業展開をもって、生徒の更なる学力向上を図る。

問題解決学習への取り組み

- ・校外劇団とのコラボレーションによるワークショップ実施の対象学年および時間数を拡大し更なる充実を図る。
- ・本校教育カリキュラムの枠組みを整理、発展させるため、文部科学省によるスーパーグローバルハイスクール(以下「SGH」)の指定を目指す。
- ・SGH指定は、指定への取組みを通じて本校の取組みをカリキュラムにおいて有機的、体系的に整理し、指定を受けられない場合においても、本校の教育力を向上し、生徒の総合的な教養を涵養し、行動力・発信能力を高める教育体制を整えることを目的とする。

校舎の有効活用と再整備の検討

- ・光の広場を図書室と一体で授業、自習等に活用できるよう、改修を行う。
- ・クラブ数の増加、学び学習、体験学習、ICT化などに対応した校舎のあり方を検討するため、中期的な観点からの校舎整備の検討を行う。

・当該計画の進捗状況

体育館の整備

金蘭会学園による北グラウンド等の売却計画に関連し、体育館等の資産交換交渉が進捗せず、具体的な体育館取得時期を確定するには至っていない。引き続き交渉を進め、具体的な整備完了時期の確定をめざす。

カリキュラムの変更

- ・今年度より中学1～3年生に週37時間制を導入し、放課後の集中講義を解消した。
- ・長期休業中の補修であるコース（サマーコース・ウインターコース・スプリングコース）はすべて2コマ連続授業とし、演習授業などに効果的な授業展開とした。

問題解決学習への取り組み

- ・演劇ワークショップ実施学年を平成27年度の2学年から3学年（中学1～3年）に拡大し、文部科学省補助事業（中学1・2年）及び文化庁補助事業（中学3年）として実施した。
- ・文部科学省によるSGHの指定を受けるには至らなかった。その原因としては文部科学省の予算削減の影響で当該年度の指定校数が従来に比べ激減したこと等による。
- ・SGHの採択の有無を問わず、本校における従来からの国際教育、キャリア教育への取り組みの再検討と整理を進め「弾力的国際人の育成」の概念を策定し、その上で体験学習等のカリキュラムを再構築する等の取り組みにより、所期の目的通り、本校の教育力を向上し、生徒の総合的な教養を涵養し、行動力・発信能力を高める教育体制を整えた。
- ・以上の通りSGH指定への取り組みは一定の成果を上げたが、指定や指定後における経費や事務作業量等と教育効果などを再検討し、SGHの指定については断念することとした。
- ・生徒が各種体験学習の成果を体系づけるツールとして、本校独自教材の「体験ノート」を開発し、今年度より運用を開始した。

校舎の有効活用と再整備の検討

- ・図書室に隣接した光の広場に可動式の仕切りを設置し、独立した教室として、また図書室と連携しながら授業を行うことのできるスペースとして整備した。
- ・校舎、設備の再整備の検討を進め、教育のICT化に対応するため、平成29年度に全教室へのICT設備整備に向けた準備を行うとともに、体育関連施設等の整備に向け、平成29年度には具体的な計画を策定することを目指して検討を進めた。

以上